

大阪フロイデニュース

# Freude

vol. 16.33. 2023.07.05 | wed

7/12(水) 18:30 川口教会  
7/19 おやみぢ  
7/26(水) 18:30  
天王寺区民センター  
(天王寺前夕陽会)

2024年10月 住友生命いずみホール曲目決まりました！ (●^o^●)

ハイドン「パウケン・ミサ」(1796年・74歳)

モーツァルト「K47 Veni, Sancte Spiritus」(1768年・12歳)

「K117(K47b) Benedictus sit Deus」(1768年・12歳)

「パウケン・ミサ」は先日発表しましたが、未定だった「モーツァルトの曲」が決まりました。k47, k117です。k117は、研究者はk47bと呼ぶこともある曲。「研究者のド・ニは K.117 と「精霊来たりたまえ K.47」の親近性を指摘している。すなわち、同じ調性であること、作曲のスタイルがきわめて近いこと、伴奏楽器の冒頭部が同じであること」だそうです。

K47 (Veni, Sancte Spiritus 「精霊よ、来たれ」) (4分程度)

Allegro 八長調 4分の3拍子の主部と4分の2拍子のアレレヤから成る。

K117(Benedictus sit Deus「主はほめたたえられよ」) (10分程度)

I. Benedictus sit Deus Pater : Allegro 八長調

II. Introibo dominum tuam : Andante へ長調

III. Jubilate Deo monis terra : Allegro 八長調

※今回は「K117のI楽章、K47、K117のIII楽章」という構成で演奏予定です。

さて、作曲されたのは1768年モーツァルト12歳ころ、というとザルツブルク司教はまだシュラッテンバッハ。モーツァルト父子との関係も良好で、長期の演奏旅行も許していました。資料によると、このときも前年の1767年9月から一家でウィーンへ旅立っており、表向きは皇女マリア・ヨゼファの婚儀の祭典のためでしたが、父レオポルドは息子を売り込もうという目的があったよう。(子どもの頃から就活しなければ!) しかしウィーンでは天然痘が大流行していたので、旅行の計画は大幅に狂ってしまい、1年以上もザルツブルクに戻れなかった。(モーツァルト姉弟が九死に一生を得たことはよく知られているそうです。)で、2曲とも、この期間で作曲された、とされています。

で、私たちが今まで演奏会で取り上げてきたモーツァルトのミサ曲はほとんどが「コロレド大司教」時代の作品。今回初めて、シュラッテンバッハ大司教時代の「神童・モーツァルト」がもっとものびのびしていた時代の音楽に出会うことになります。

一方「パウケン・ミサ」パパ・ハイドン74歳。モーツァルトの作品から28年後。来年の演奏会、「神童」と「パパ」のコンビネーション、ちょっと面白いかも(^\_-)-☆



1791年 11月 6日  
モーツァルト

1732 1730  
ローマ

8歳

ウィーン 聖歌隊

17歳

作曲や楽器やら  
多業日持

29歳

エステルハージ家  
(ニコラス二世の息子)

楽長

交響曲をはじめ  
文筆曲をほめた  
1770年

領主の交替で  
楽長を辞職  
貧乏生活

58歳

件々生活困難

62歳

エステルハージ家  
(ニコラス二世)

復職

77歳

後期 6大ミサ

オラトリオ  
『天啓創造』

1809 1810



11の4年 3冊の交響曲

『ザルツブルグ』  
『アマテラス』  
モーツァルト



K47  
K117  
29歳

1756 ザルツブルグ生  
(大司教シュラッテンバーハ)

ザルツブルグ 2冊

ヨーロッパ中を  
演奏旅行した

1770

15歳 大司教の『ゴルト』

ザルツブルグ 2冊

窮乏

1780

ウィーン 交流アリ

25歳 脱出

ウィーン 2冊

フランス音楽家

貧乏生活 大主の関心?

1790

1791

35歳

『クオ・ヴリス』  
『レクイエム』

『クオ・ヴリス』  
『レクイエム』

『クオ・ヴリス』  
『レクイエム』

『クオ・ヴリス』  
『レクイエム』



3冊のミサ 1807年

